

総合社会学科 課題

近年、日本のインバウンド観光は急成長を遂げ、2024年には過去最多の訪日外国人を記録した。一方で、オーバーツーリズムによる住民の生活環境への影響や観光地の魅力低下といった課題も顕在化している。以下の社説を踏まえ、日本の観光をより良くするために必要な対策についてあなたの考えを800字以内で論じなさい。

(社説) インバウンド過去最多 生活環境守る視点忘れず

来訪者の数を増やすだけでは、観光地としての魅力を損ないかねない。暮らしを守り、地域の価値を高める施策に軸足を移す時だ。2024年の訪日外国人(インバウンド)が約3687万人となり、過去最多を更新した。コロナ禍の影響が払拭される中、円安で日本への旅行に値ごろ感が強まったことも追い風となった。

外国人が国内で使ったお金は8兆円を超える。外貨を獲得できる点では輸出と同じ効果があり、自動車に次ぐ稼ぎ頭となっている。政府は30年に6000万人を受け入れる目標を掲げるが、課題は多い。混雑やマナー違反、ごみの増加といった問題が一部地域で深刻化している。旅行者が悪い印象を抱くだけでなく、住民の生活を脅かす。鉄道・バスの増便や、マナーを説明するピクトグラムの一統化といったオーバーツーリズム対策を、政府は講じている。旅先が特定の地域に偏る状況を是正するため、地方の情報発信も強化する。

だが、初めて訪日する人が増え、東京や京都など定番の観光地に集中する傾向はむしろ強まった。映画・アニメの舞台を訪れる「聖地巡礼」や、ネットで拡散した情報をもたらす混雑も目に付く。住宅地も含まれるため、来場制限などの対策を取りにくい。混雑状況を知らせるアプリの開発など、きめ細かな情報を提供し、人出を分散させる必要がある。旅行者に宿泊税を課す動きも広がっており、既に11自治体が導入した。京都市は1泊当たりの最高額を現行の1000円から1万円に引き上げる方針だ。

受け入れ態勢整備の財源となるが、観光の裾野は広く、道路整備なども対象になり得る。むやみに用途を広げれば、混雑緩和などに充てる税の趣旨から離れる。住民の意見を聞き、旅行者の理解を得られる使い方を考えるべきだ。用途を公開し、透明性を確保することも欠かせない。

観光の魅力の一つに、交流によって旅行者と地域住民が相互理解を深めることがある。摩擦を生むようでは本末転倒だ。政策の目標を集客数と消費額から、顧客の満足度や生活環境の改善などに切り替えるべきだ。量から質への転換が急務である。

毎日新聞 2025年2月11日